

(11) 沖縄



沖縄地域では、景気は回復している。

- ・ 観光は堅調に増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

なし。

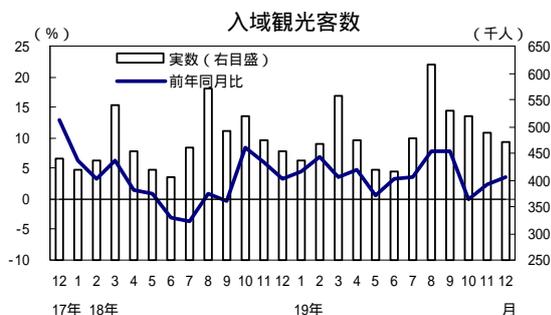
1. 観光及び企業動向

(1) 観光は堅調に増加している。

入域観光客数は、10月は、前年の反動で減少したものの、航空会社の提供座席数の増加、定期クルーズ船の運航再開、チャーター便の増加などから好調を維持した。11月は、前年にあった3連休が今年にはなかったが、航空会社の増便等による提供座席数の増加、香港からのチャーター便の増加などから堅調な伸びとなり前年を上回った。12月は、年末年始の日並びがよかったこと、那覇マラソンへの県外からの参加者増加などから前年を上回った。なお、10月は同月としての過去2番目を、11、12月も過去最高を記録した。

10～12月期における主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内では一部客室改装工事などの影響から、リゾートホテルは台風の影響から伸びず、全体では前年を下回った。

なお、1月の航空旅客輸送実績は、利用率が前年比で増加しており、引き続き高い水準で推移している。



入域観光客数等の動向

(単位：千人、%)

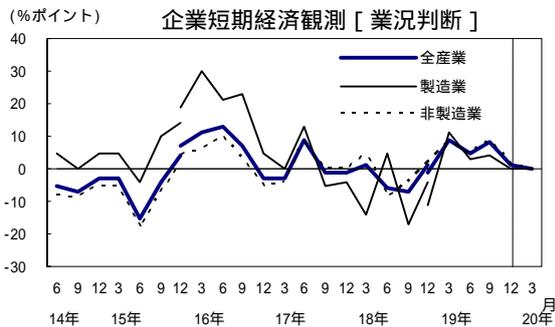
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
入域観光客数	1,459	1,313	1,620	1,477
(前年比)	4.8	2.9	6.5	1.9
ホテル稼働率(前年差)	1.3	0.6	0.5	2.4

(備考) 1. 入域観光客数は沖縄県観光商工部調べ。

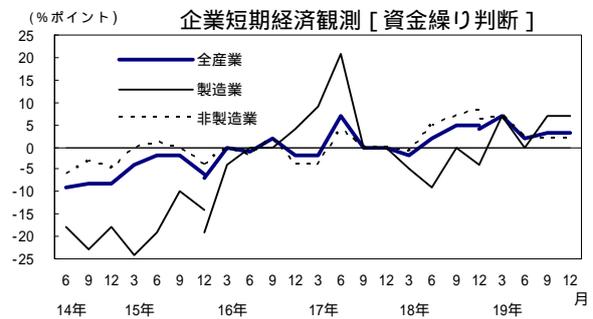
2. ホテル稼働率は日本銀行那覇支店調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

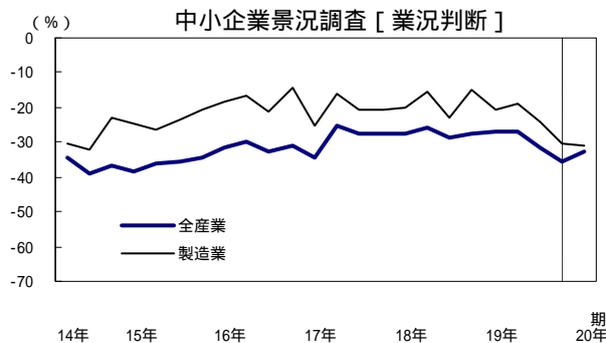
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年3月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。
九州地区のD I。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

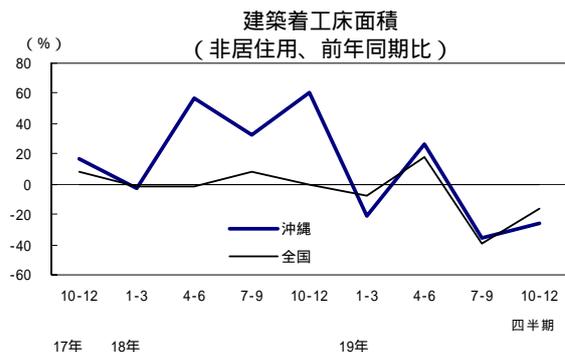
「荷主からのニーズはあるが、受注価格が抑えられ収益自体は伸び悩んでいる(輸送業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「改正建築基準法の影響で建築確認及び着工が遅れている(建設業)」など「悪くなっている」とする回答も多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度概
全産業	7.6	17.7(4.7)
製造業	0.3	15.2(2.9)
非製造業	8.6	18.0(5.7)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。石油・電力を除く。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額及びコンビニエンスストア販売額

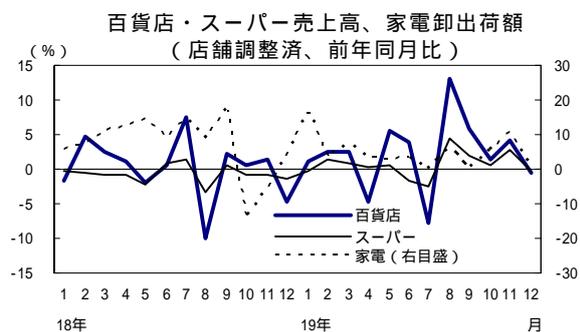
百貨店は、10月は、物産展などの催事効果で食料品が、セール効果で秋物衣料が各々好調に推移したことから前年を上回った。11月は、ボージョレーヌーボー解禁セールや、気温の低下に伴い秋冬物衣料が堅調に推移したことから前年を上回った。12月は、お歳暮催事などは順調だったものの、暖冬の影響で衣料品が不調となり、前年を下回った。

スーパーは、食料品販売が堅調に推移し、前年を上回った。

家電は、洗濯機や冷蔵庫などの高付加価値製品に加えて、引き続き薄型テレビが好調だったことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「来客数がかなり落ち込んでおり、ここ数年来で最大の落ち込みである。当店だけでなく業界全体的に落ち込んでいる模様で、景気の冷え込みが懸念される(家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

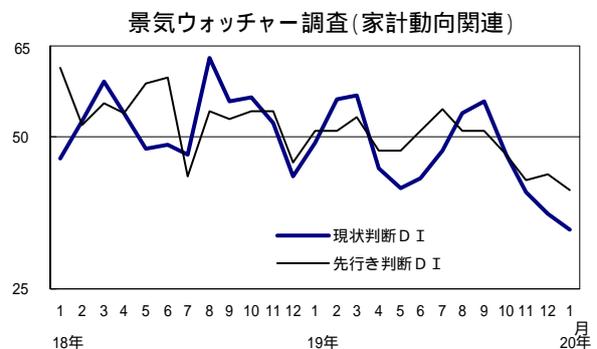
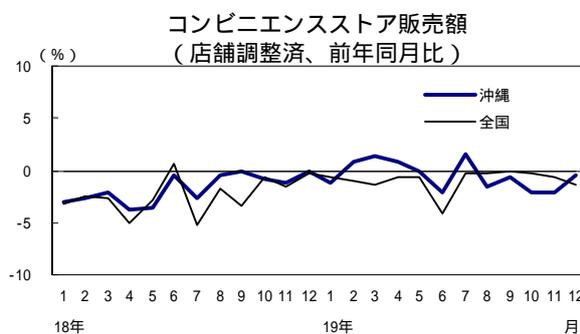


	(前年同期比, %)			
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
百貨店	2.0	1.4	2.7	1.5
スーパー	0.6	0.3	1.3	0.8
家電卸出荷額	8.7	3.1	1.8	4.9
コンビニ	0.3	0.5	0.2	1.6
景気ウォッチャー	54.0	43.2	52.4	41.8

(備考) 1. 百貨店、家電は沖縄銀行調べ。

2. スーパー、コンビニは日本銀行那覇支店調べ。店舗調整済。

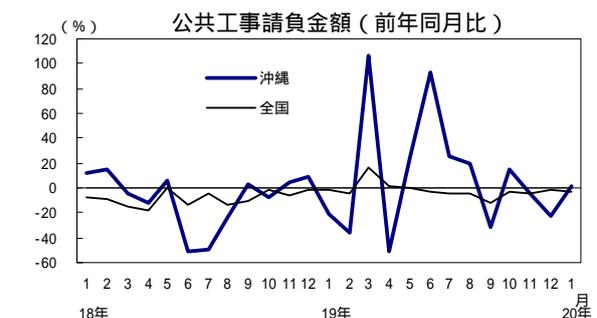
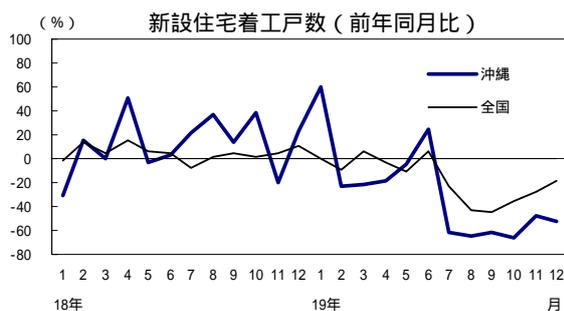
3. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家、持家、分譲、給与すべてにおいて前年を下回ったことから大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

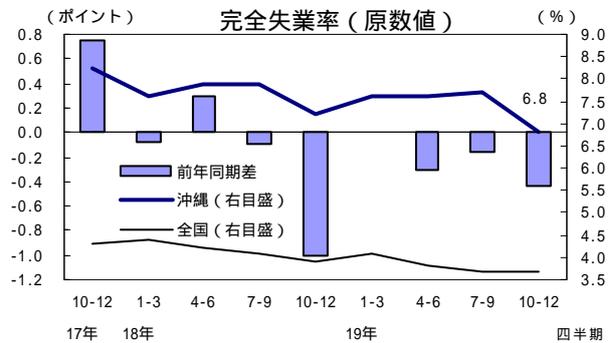
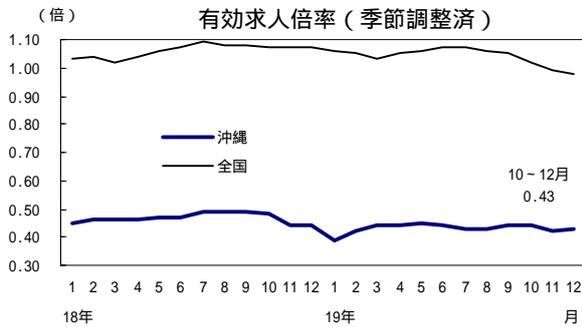


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

「県内企業経営者に景気の不透明感が広まっており、求人に対して慎重な見方が増えている (学校 [大学])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

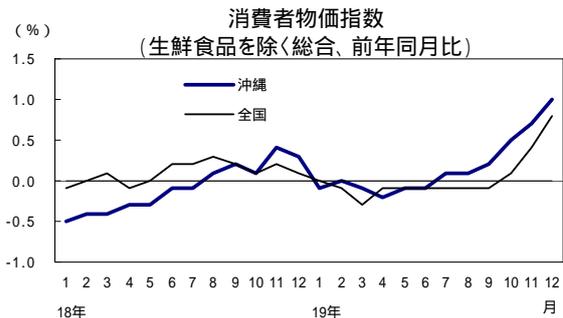
(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加しているものの、負債総額は減少している。

1月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	15	23	16	24	11
(前年比)	7.1	27.8	50.0	26.3	57.1
負債総額	14	44	15	33	8
(前年比)	75.0	16.7	83.1	88.4	8.8



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・入域観光客数の伸びに比例して稼働件数も伸びており、前年同月比で103%となっている(その他のサービス [レンタカー])

<先行き>

・ここ数年、売上の推移は一定のパターンに沿っている。それから外れる気配は無い(ゴルフ場)

